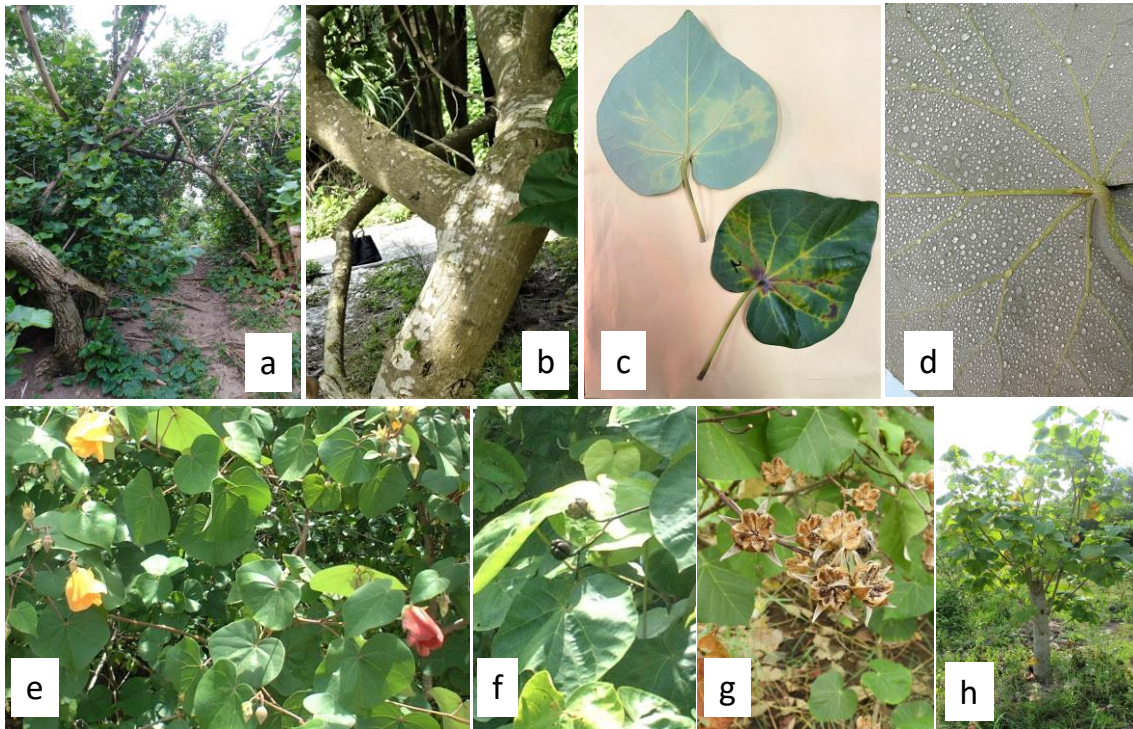
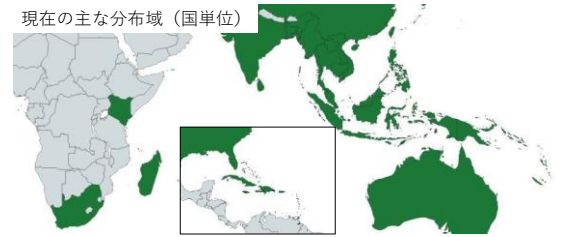


## オオハマボウ（アオイ科）

*Hibiscus tiliaceus* L.

英語：Linden hibiscus, corkwood, beach hibiscus



【概要】アジア、アフリカ、アメリカの熱帯から亜熱帯域の沿岸域に広く分布し、日本でも種子島以南の南西諸島、小笠原に分布する。主に、河口、砂浜やマングローブの後方に群落を作る。塩に耐えるため防風・防塩・防潮林として沿岸に植林され、屋敷林、街路樹などの緑化木としても利用される。

【形態】樹高は最大で15m程度、直径は1mに達する場合もあるが海岸線では樹高数m程度の灌木になる。幹は地面を這いよく分枝する（写真 a）。樹皮は白っぽく縦割れし、繊維質である（写真 b）。葉の長さは10-15cm、円形で基部が心形になり先端は細くとがる（写真 c）。葉の表面は緑色で無毛であるが裏面は短い星状毛を密生して灰白色を呈し水を良くはじく（写真 d）。花は他のアオイ科の植物とよく似ており、最初は黄色であるが後にオレンジ色から淡い赤色に変色し落下する（写真 e）。蒴果は球形で裂開しゴマ粒大の種子が入っている（写真 f, g）。

【生態】熱帯から亜熱帯域の海岸線に広く分布し、砂浜やマングローブでは後方に群落を形成することが多い。沿岸部の標高800m以下の低地にも分布する。ほぼ年中開花するが花の寿命は短くほぼ一日である。蒴果は海水に浮き、一年程度は発芽力を失わないため海流によって散布される。また樹皮などの利用価値も高いため人間による移植もあ

## 森林再生テクニカルノート：荒廃地修復のための主な植栽樹種

ると考えられている。耐塩性に優れ、高温への耐性が高い反面、耐寒性は低い。砂地など排水のよい土壌が適しているが滞水した土壌や海水にも耐える。またアルカリ性から酸性の土壌にも生育可能である。

〔繁殖・育苗〕多くの地域では年間を通じて開花結実する。種子は 1g あたり 60–80 粒である。発芽率は 50%程度で発芽温度は 20–30℃である。通常発芽まで 1, 2 か月かかるが 10 か月程度かかることもある。挿し穂の発根率が高いため挿し木増殖は容易である (h)。

〔成長・その他〕成長は早く年樹高成長が 0.8m~1.7m に達する。葉は食物を包む用途や家畜の餌、咳止めなどの薬用にも用いられる。樹皮の繊維は頑丈で、漁具や縄などに利用されてきた。また日本だけでなくハワイやポリネシアなどでは樹皮をたたいて伸ばし布状にし、衣類や敷物などに用いられてきた。木材は舟材や建材として使われる他、水中メガネの枠などへの利用もあった。沖縄ではユウナと呼ばれ、佳子内親王のお印になっている。

〔主な参考文献〕天野鉄夫(1989)琉球列島有用樹木誌, 沖縄出版. Elevitch C.R. (2006) Traditional trees of Pacific Islands: The culture, environment and use. (出版)Permanent Agriculture Resources. 上原千香子 (2021) 島の木の図鑑. (出版) KATARIGI.

(国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター 田中憲蔵)

写真 a 海岸防風林の植栽 撮影地：沖縄県、撮影年月：2020 年 1 月、撮影者：田中憲蔵

写真 b 樹皮 撮影地：沖縄県、撮影年月：2020 年 3 月、撮影者：田中憲蔵

写真 c 葉 (表) 撮影地：沖縄県、撮影年月：2022 年 1 月、撮影者：田中憲蔵

写真 d 葉 (裏) 撮影地：沖縄県、撮影年月：2022 年 1 月、撮影者：田中憲蔵

写真 e 若い黄色の花と古いピンクの花 撮影地：タイ、撮影年月：2005 年 7 月、撮影者：田中憲蔵

写真 f 若い果実 撮影地：タイ、撮影年月：2005 年 7 月、撮影者：田中憲蔵

写真 g 裂開した成熟果実 撮影地：レイテ島、撮影年月：2018 年 9 月、撮影者：JIFPRO

写真 h 太枝の挿し木 撮影地：ジャワ島、撮影年月：2018 年 4 月、撮影者：JIFPRO